

平成29年度外国人留学生特別選抜

小 論 文 問 題

注意事項

- 1 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙を開けてはいけません。
- 2 問題用紙・解答用紙の定められた欄に必ず受験番号を記入下さい。
- 3 問題用紙と解答用紙が別々になっています。表紙は切り離さずに解答下さい。
- 4 問題用紙は表紙を入れて2枚、解答用紙は1枚、下書き用紙が1枚あります。
- 5 解答時間は60分です。
- 6 解答は解答用紙に横書きに記入下さい。

受験番号	
------	--

山梨県立大学人間福祉学部
平成 29 年度福祉コミュニティ学科外国人留学生特別選抜

小論文 問題

次の文を読んで、内容を要約し、適切な対応についてあなたはどのように考えるか、800 字以内で述べなさい。

少子化が進む日本で、虐待やネグレクト（育児放棄）を理由に実の親と離れて暮らす子どもの数は増えている。里親の多くはこうした子どもたちを迎え入れ、共に生活する。児童虐待問題に詳しい山梨県立大の西澤哲教授（臨床福祉学）は「現代の里親には傷ついた子どもたちをケアする治療的要素が求められている」と話す。

西澤教授によると、日本における里親の仕組みは、戦争孤児たちを一般家庭で受け入れたことが始まりだという。特に人手が求められた農村部の家庭で必要とされ、山梨のほか、新潟や北海道で里親委託率が多いのは、このころの名残だという。

孤児のほか、親の病気や貧困によって社会的養護を必要とする子どもの数は減少する一方、1990 年代中ごろになると、家庭内で虐待を受けた子どもたちが児童養護施設に預けられるようになった。西澤教授は「虐待などを受けた子どもは施設で、それ以外の子どもを里親の元で養育しようと、すみ分けが図られた。しかし、虐待の件数が急増し、里親の元にも問題を抱えた子どもたちが預けられるようになった」と説明する。

「心に傷を負った子どもたちを養育するには、通常の子育てよりも多くのエネルギーが必要」と西澤教授は話す。だが、里親が必ずしも対応できる知識や技能を持っているとは限らない。十分な準備のない里親に、問題を抱えた子どもたちを預けたことで起きる弊害もある。

2010 年には、東京都杉並区で里親からの虐待を受けた女兒が死亡する事件が起きた。西澤教授によると、施設や里親の元で暮らす児童らが虐待を受けた事例で、里親が関わったのは 1 割にとどまる。だが「里親から不適切な扱いを受けることで、里子は第二、第三の傷を負ってしまう」と話す。

子どもの怒りや悲しみといった感情の裏に、どんな心理があるのかをくみ取るためには、トラウマ（心的外傷）や、愛情を感じることができない愛着障害に対応するノウハウが求められる。「例えば里子が里親に向かって『ばーか、おまえなんか関係ないだろ』と暴言を吐いたとする。言葉を真に受ければ『何だその言葉遣いは』と感情をあらわにして怒鳴ったりするかもしれない。でもそれは正しい対応ではない」

日本の里親委託率は約 14%。厚生労働省は今後、委託率を 30%まで引き上げることを目指しているが、西澤教授は「現行のやり方では、里子を預かる里親の方がギブアップしてしまうだろう」と指摘。「アメリカでは 24 時間、里親からの相談に応じられるような専用ダイヤルも用意されている。里親の数を増やす前に、里親が心のケアを学ぶ研修の場を増やすなど、支援体制を強化すべきだ」と強調した。